



# サフラン便り

第56号 24年4月15日発行

発行：佐賀県薬剤師会女性薬部会  
佐賀市本庄町大字本庄 1269-1  
TEL:0952-23-8931 FAX:0952-23-8941  
<http://www.sagayaku.or.jp/josei/index.html>

## 手話講座開催について

聴覚障害者が生活面で一番困ることは医療機関におけるコミュニケーションです。医療機関にかかっても医師の言う事が分からない、紙に書いてくれても言葉が難しすぎて理解できないなど感じている聴覚障害者が多いのです。一方、手話を覚えたいと思っている医療従事者もいますが業務との兼ね合いでなかなか実現に至りません。そのため聴覚障害者が敢えて筆談や口話などで合わせているという状況がよく起きています。

医療従事者にとって一番大切なのは、患者一人一人に合わせたコミュニケーション手段をケースバイケースでセレクトすることです。その中に外国人や聴覚障害者も含まれています。ですから、一人の医療従事者として最も心がけるべきことは「患者に伝えたいという気持ち」を持つことではないでしょうか。ひいては薬剤師としてきちんと説明して、理解してクスリとつき合ってもらうことが重要なことだと思います。

(「手話で学ぶクスリの教科書」編集：早瀬久美 序章より掲載)

早瀬久美さんはろうあ者で初めて薬剤師になられた方です。以前話題になりました。

## 手話講座開催の経緯

他職種女性の集まりで毎年お正月に「女性名詞交換会」が開催されます。今年も女性薬剤師部会から5名が参加しました。そこで同じテーブルに手話の先生がおられて、手話についていろいろお話を伺いました。交換会の最後は参加者全員で「ふるさと」の歌を手話で合唱しました。

そこで是非薬剤師会でも手話教室を始めようということになり、福島あさ子先生を中心として2月から始めることにしました。講師の先生は佐賀県盲ろう者友の会所属盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者の

古田悦子先生です。月1回の予定で不定期ではありますが、主に金曜日に開催しています。教材の他に身近な事や知っていると思われる手話も教えていただき、楽しい手話講座です。興味のある方は是非、ご参加ください。連絡先は薬剤師会女性薬部会まで。4月は27日(金)午後8時から、県薬会議室で開催します。

(古田悦子先生 自筆のイラスト)

・おはようございます



・こんにちは



・今晚は



・ありがとう



・さようなら



お大事に

(手話仮字 HP より)

### <乳児の哺育料並びに胃腸障害の栄養食料として適合する理由>

- (1) ボーデンス・モルテッド・ミルク製造に使用する真空釜は世界最大の乳会社の創立者であり、モルテッド、ミルク製造の元祖であるゲール、ボーデン氏が発明し特許権を獲ったものであります。且つ調合方式と精製法の卓越せる点に於いてボーデンス会社は世界に本品と同じ製品なしと断言します。
- (2) ボーデンス・モルテッド・ミルクに含有する蛋白質は人乳の量と同程度に調整してあります。なお、乾酪素(カゼイン)は乳児の胃中にて凝固し、消化困難をきたす障害を防ぐため、大麦の保健要素と化学的に混合せしめた上に、なおも特筆大書すべきは異種蛋白を哺乳蛋白に近く修正し(カゼイン)乾酪素の消化を完全に容易ならしむる為、ボーデンス会社は独自の技術をもって分析表の通り(カゼイン)乾酪素の一部は「ペプトン」になるまで予め消化してあります。元来カゼインはペプトンとなりアミノ酸となり一定の変化を受けて消化されるものであります。故に含有量において、性質において母乳に近く、各製造に親切を尽くしたものは胃中にて凝固すること母乳の如くであります。従って容易に同化され消化されるのであります。之れ本品お大なる誇りであってまた価値ある所他の追従を許さぬ点であります。

(米國ボーデンス・ミルク會社 ボーデンス・モルテッド・ミルク日本部 總代理店 岡本商會版)

### <2012年度 日本女性薬剤師会学術講演会 開催のご案内>

テーマ:「一緒に考えよう、生命の贈りもの 誕生から再生まで」

日本では急速に進む少子高齢化が深刻な問題になっています。しかし、子どもを持ちたくても持つことのできない不妊症の夫婦が8~10組に1組の割合で存在するといわれています。国の支援もあり、不妊症治療は飛躍的に進んでいますが、費用や倫理的問題を見逃すことはできません。一方、世界一の長寿国といわれる日本ですが、医学が進歩した今、薬や手術などでは治療することができず、臓器移植という治療法でなければ治療ができない病に苦しんでいる人がいます。

多くの課題がある「不妊治療」と「移植医療」という現代日本の最先端医療を著名な先生方に学びましょう。(日本女性薬剤師会 HP より)

日時:平成24年6月17日(日) 10:00~16:00

会場:星薬科大学 メインホール 東京都品川区荏原2-4-41

受講料:7000円(事前申込6000円)

最近の医療行政について(厚生労働省大臣官房審議官 平山佳伸先生)

生殖医療の現実と問題点 現代女性のリプロダクティブヘルスとART

(山王病院院長・リプロダクティブセンター長・元東宮職御用掛 前東京大学医学部教授 堤 治先生)

死を生に繋ぐ臓器移植(臓器移植ネットワーク広報・普及啓発部長 雁瀬美佐先生)薬剤師

我が国における臓器移植の現状と展望

(大阪大学医学部附属病院心重症臓器不全治療学寄付講座 教授 福嶋教偉先生)

参加ご希望の方は、県薬でまとめて申し込みます。4月25日まで事務局にお知らせください



### <ちょっと一言>

新しい年度が始まりました。女性薬部会では今まで色々な企画を考えてそれを実行に移し、少しは皆様のお役に立てたかなというものから、力不足でもう一歩だったなと反省する事柄もありました。10年先にはこうなっていたいな~とイメージした事が実現してくると、やはり強く念じる力の大切さを感じます。孫の学校だよりの(「しつけ」とは「し続ける」ことであり、そのことによって「よい方向付けをすることである」という文面に生活習慣の基本を再確認しました。三日坊主の私も三日坊主をし続けて今ここに辿り着いたのだから、この先10年を具体的にイメージして進んでいこうと思います。(島田)